

営農振興計画向け 生産組織と懇談会

J A 越後おぢやは、平成31年度から3年間取り組む第4次地域営農振興計画の策定に向けて、J A 生産組織の組合員の声を取り入れるための話し合いを進めています。作物別に将来、産地としてありたい姿や今後生産組織での必要な取り組み、J A にやってほしいことなどを聞き取り、今後の事業に反映させる考えです。



▲地域営農振興計画の策定に向けて情報を共有する生産者とJ A 役職員

生産組織との話し合いは、同J A 管内の重点作物である稲作、園芸品のメロン、スイカ、カリフラワー、ニンジンの各組織と行います。生産者からは「マスコミなどへのPRを強化し、ブランド化戦略をさらに進めてほしい」などの要望がありました。

J A では、地域営農振興計画を基に第5次総合3カ年計画を策定していきます。

J A の藤島睦常務は「小千谷産農産物は基幹作物である米を始め、メロン、スイカ、カリフラワー、ニンジンと市場や消費者から高評価を得ている。生産者の声を取り入れた中で『オールおぢや』としてさらにPRを強化し、利用拡大を図っていく」と力を込めます。

農薬適正使用、 農機具保守学

11月26日(月)小千谷市園芸振興協議会は、J A 総合営農経済センターで、農薬適正使用・農機具メンテナンス講習会を開きました。J A 園芸生産組織の組合員ら14人が参加し、農薬の正しい使い方や効果的な使い方、自分でできる農機具メンテナンスのポイントなどを共有しました。

同協議会の和田浩之会長は「若手生産者からも多く参加してもらえた。農薬の効果的な使用方法などを学んで、次年度の生産に生かしてほしい」とあいさつしました。同協議会は、市内の園芸生産組織やJ A 越後おぢや、行政などで組織します。

講習では、農薬卸業者から講師を招き、参加者は農薬の上手な使い方や新規農薬などを学びました。講師は「殺虫剤や殺菌剤などの

農薬の多くは使い続けると抵抗性がつく可能性があるため、同一系統・作用の薬剤は避け、ローテーション防除を心掛けよう」と強調しました。

生産コストの低減支援を目的に、農機課の加藤幸次係長が農機具のセルフメンテナンスのポイントを紹介。加藤係長は「管理機や防除機など、使い終わって格納する前にセルフメンテナンスを行って、大切な農機具を長く使ってほしい」と呼び掛けました。



▲展着剤の効果を学ぶ参加者

月岡温泉華鳳でゆったり 合併15周年記念旅行

11月29日(木)と30日(金)、JA越後おぢやは、合併15周年記念旅行「月岡温泉華鳳で過ごす2日間の旅」を行いました。

組合員や地域住民ら総勢450人が参加しました。

同日はバス12台で出発し、華鳳到着後は各号車ごとに思い出に残る記念写真を撮影。その後は、記念イベント「柳澤純子さん歌謡ショー」を楽しみました。

会場では、柳澤さんと参加者がデュエットで歌を披露したり、抽選会を行ったりして盛り上がりました。



▲柳澤純子さん歌謡ショーを楽しむ参加者

は、カラオケや踊りが飛び出すなど、楽しいひとときを過ごしました。

2日目は、新潟ふるさと村や寺泊中央水産に立ち寄り、お買物を楽しみました。

参加者は、新潟県を代表する温泉旅館で日頃の疲れを癒しました。

ニシキゴイ市場で納会 全32回 6764舟を売買

11月30日(金)、JA越後おぢやは、JA錦鯉市場で、1年間のニシキゴイの市場取引を締めくくる納会を開きました。出荷者やバイヤー、JA役員が市場を訪れました。

この日は、市内外の生産者が198舟を出荷。番台

の軽快な掛け声のもと、「舟」と呼ばれるケースで搬入したニシキゴイを次々とせりに掛けていきました。今シーズンは全32回の市場を開き、6764舟が取引されました。

JAの谷口熊一組合長は「県内で唯一のニシキゴイ取引市場として、これからも地域の産業を支えていきたいのでご協力をお願いしたい」とあいさつしました。



▲納会であいさつするJAの谷口組合長

園芸特産課の広井弘明課長は「夏場は猛暑の影響で舟数が減少したが、昨年より良好な単価の取引だった」と今年度の市場を振り返りました。

小川ミイさん記事活用体験発表 「家の光」大会

12月3日(月)、JA新潟中央会は、平成30年度JAグループ新潟「家の光」大会を新潟市で開きました。県内のJA女性組織役員、JAや県連の役職員ら約350人が参加。第38回JA県大会決議の着実な実践に向け、JAグループ役員が関係情報を共有・活用し、JAのさまざまな活

動を通じて「食」「農」「協同組合」の理解促進と協同の輪を広げることを確認しました。

「家の光」記事活用体験発表では、当JA女性部を代表して四ツ子支部の小川ミイ支部長が「アイデアいっぱい、楽しさいっぱい、作らん会は仲間づくりの合言葉」と題して発表しました。



▲記事活用体験発表をする女性部四ツ子支部の小川支部長

た。小川支部長は、昨年2月にたちあげたパービーブアクセサリーづくりの会「作らん会」を紹介。「仲間づくりは、踏み出す勇気と、継続が大切だ。目標は地域の皆さんの笑顔です」と強調しました。

コープにいがたの組合員と交流 小千谷人参生産組合

12月3日(月)、JA越後おぢやのニンジン生産組織「小千谷人参(にんじん)生産組合」は、三仏生の圃場で、コープにいがたの収穫体験を受け入れました。

コープにいがたの組合員・家族40人が参加して農作業を楽しみました。今回で8回目の開催です。

参加者は泥だらけになりながらニンジンを引き抜き、持ち帰り用のビニール袋がいっぱいになるまで詰め込みました。

収穫したニンジンには「ひとみ五寸」で、肉質がやわらかく甘味が強いのが特徴です。

収穫体験後には、参加者と生産者は、ニンジンを使った料理と小千谷産「魚沼



▲ニンジンの収穫を楽しむ参加者

コシヒカリ」のおにぎりを囲んで交流を深めました。

同生産組合の国松俊輔組合長は「今年産もおいしい人参ができたので、みなさんから多くの注文が来るのを待っています」と笑顔で話しました。